

D—4 乳幼児の身体並びに精神発達に関する逐  
年の研究  
第2報 栄養方法別に見た満2年児の  
諸発育状況について

鹿児島大 齋藤 マサ  
林 妙子

1. 2. 前回は満1年児の栄養方法別による、身体発育ならびに精神発達について、その結果の一部を発表したが、今回はこれに引続き、同じ資料と同じ方法を以って諸調査測定を行なったものである。

3. 栄養方法別にみた満2年児の身体発育ならびに精神発達の成果として、男女児ともに、全般的には前回の1年児の成績とほぼ同様の傾向を示しているが、母乳、混合、人工児のそれぞれの発育の平均値は漸次接近してきた様に思われる。この傾向は特に、発達指数に示された。すなわち男児にあっては、身長、体重、胸囲その他の身体発育の平均値においても、DQの平均値においても有意差は見られなかった。女児にあっては身体発育のうち、体重においてのみ、3群間に有意差が見られ、特に混合児は他群より優れていたが、その他はD、Qを含めて3群間に有意な差は見られなかった。